

薬剤治療学Ⅱ

責任者・コーディネーター	薬剤治療学講座 三部 篤 特任教授		
担当講座・学科(分野)	薬剤治療学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 22.5 時間
期間	後期		
単位数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

代表的な疾患に対する薬剤治療戦略、使用薬剤に関する代表的な副作用と適用上の注意点、薬剤相互作用などについて解説する。また、代表的な処方箋を例にとり、薬剤による治療解析の意味を総合的に考える能力を養う。

・一般目標（GIO）

代表的な疾患の治療戦略を考えるために、疾患の病態、治療薬剤の特徴、使用上の問題点を習得する。

・到達目標（SBO）

1. 糖尿病の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について説明できる。
2. 脂質異常症の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について概説できる。
3. 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について概説できる。
4. 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。
5. 白内障、緑内障、結膜炎、網膜症について説明できる。
6. 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
7. アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎等の疾患について説明できる。
8. めまい・メニエール病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
9. 関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
10. 循環器疾患、貧血、白血病、播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明でき、かつ最新の治療技術を紹介できる。（☆）
11. 血友病、悪性リンパ腫、紫斑症、白血球減少症、血栓・塞栓について概説できる。
12. 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
13. 消化性潰瘍に病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
14. 上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺がん、について説明できる。
15. 薬物動態および薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明でき、かつ最新の治療技術を紹介する。（☆）
16. 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。
17. 主作用、副作用、毒性および有害事象との関連およびそれぞれの違いについて説明できる。

・講義日程

（矢）東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/11	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	糖尿病治療薬
9/18	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	高脂血症治療薬

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/25	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	高尿酸血症治療薬・痛風治療薬
10/2	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	感覚器系疾患治療薬—眼、耳、鼻などの疾患—
10/9	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	消化性潰瘍治療薬
10/16	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	循環器治療薬 (I) 高血圧治療薬
10/23	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	循環器治療薬 (II) 抗不整脈薬
10/30	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	循環器治療薬 (III) 心不全治療薬
11/6	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	循環器治療薬 (IV) 心不全治療薬および虚血性心疾患
11/13	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	血液・造血器系疾患治療薬 (I)
11/20	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	血液・造血器系疾患治療薬 (II)
11/27	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	アレルギー免疫疾患の治療薬 (I)
12/4	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	アレルギー免疫疾患の治療薬 (II)
12/11	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	呼吸器・胸部の疾患治療薬—閉塞性気道疾患など
12/18	火	1	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	総括

・教科書・参考書等 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	処方わかる医療薬理学 (2010-2011) 第6版	中原 保裕	学研メディカル秀潤社 (定価 3,000 円)	2010
教	治療薬マニュアル	監修 高久史麿、矢崎義雄	医学書院 (定価 3,360 円)	2012
参	図解 薬理学—病態生理から 考える薬の効くメカニズムと 治療戦略— 第2版	越前 宏俊	医学書院 (定価 2,940 円)	2008

・成績評価方法

定期試験を主とし、これに出席率などを加味して総合的に評価する。